

MAFF

日本における食品の安全性確保

平成27年5月

農林水産省
食料産業局

【目次】

1. 放射性物質に関する基礎知識

各国の食品の基準値について	3
日常生活と放射線	4
自然放射線から受ける線量	5
放射性セシウム（Cs134、Cs137）の線量率の減少	6

2. 食品の安全性確保への取組

食品モニタリングに基づく適正な流通管理	8
基準値を上回ったときの対応（出荷制限・摂取制限）	9
食品の安全性確保の取組みへのIAEAの評価	10
食品モニタリング結果（基準値超過率の年次推移）	11
〃（基準値超過率の4半期別推移）	12
福島県産米の全袋検査の概要	19
福島県産米の全袋検査の結果（H24年産～26年産）	20
福島県の食品安全性確保へ向けた取組（野菜・果実）	21
〃（牛肉）	22
〃（水産物）	23
〃（生産段階）	24

3. 環境汚染に対する取組強化

福島第一原発専用港湾内への汚染水漏洩による影響について	26
福島原発の港湾における魚類の移動防止策	27
大気中の放射線モニタリング	28

4. 日本から各国への輸入規制緩和の働きかけ

日本から諸外国等への輸入規制緩和の働きかけ	30
諸外国・地域の輸入規制の緩和状況	31
輸入規制を緩和・撤廃した国・地域	32
EUの食品等の輸入規制	33
シンガポールの食品等の輸入規制	34
韓国の食品等の輸入規制	35
台湾の食品等の輸入規制	36
香港の食品等の輸入規制	37
米国の食品等の輸入規制	38
中国の食品等の輸入規制	39

1. 放射性物質に関する基礎知識



各国の食品の基準値について

MAFF

- 国際基準であるCODEXでは、一般食品の放射性セシウムの基準値は、1,000ベクレル/kg。
- 日本は、国際的な考え方に準拠した基準値(100ベクレル/kg:一般食品)を設定し、食品の安全性を確保。

単位: Bq/kg

核種	CODEX	EU	米国	日本
放射性セシウム (¹³⁴ Cs, ¹³⁷ Cs)		飲料水 1,000		飲料水 10
	乳児用食品 1,000	乳製品 1,000	全ての食品 1,200	牛乳 50
	一般食品 1,000	乳児用食品 400		乳児用食品 50
		一般食品 1,250		一般食品 100

※補足

- ・コーデックスについては、介入レベル1mSvを採用し、全食品のうち10%までが汚染エリアと仮定。
- ・EUについては、追加の被ばく線量が年間1mSvを超えないよう設定され、人が生涯に食べる食品の10%が規制値相当汚染されていると仮定。
- ・米国については、預託実効線量5mSvを採用し、食事摂取量の30%が汚染されていると仮定。

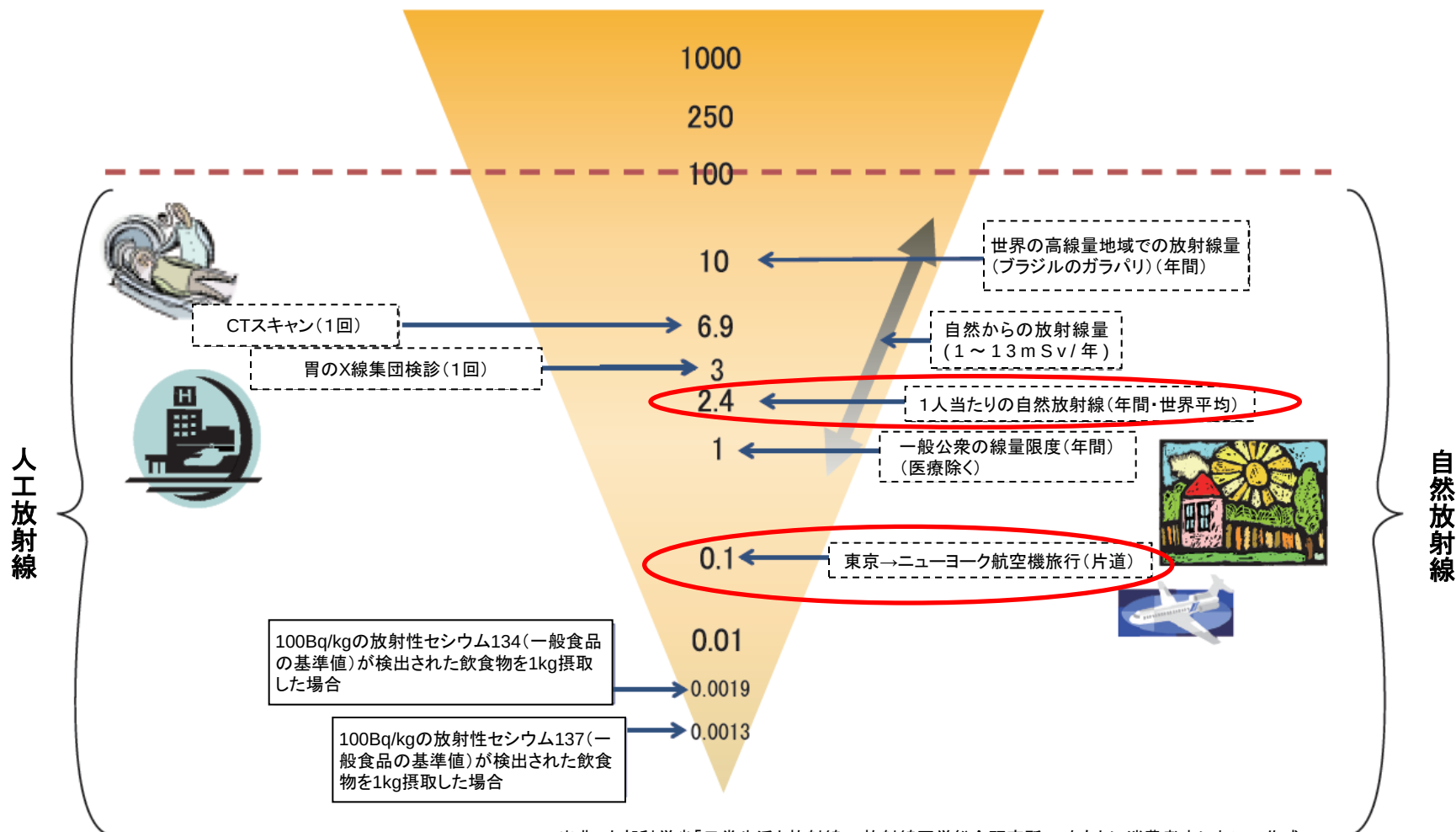


日常生活と放射線

MAFF

- 我々は、日常の生活の中でも、放射線を受けている。
- 例えば、飛行機による移動でも放射線を受ける。(0. 2ミリ・シーベルト／日本～ニューヨークを1往復))

日常生活と放射線(単位:mSv(ミリシーベルト))



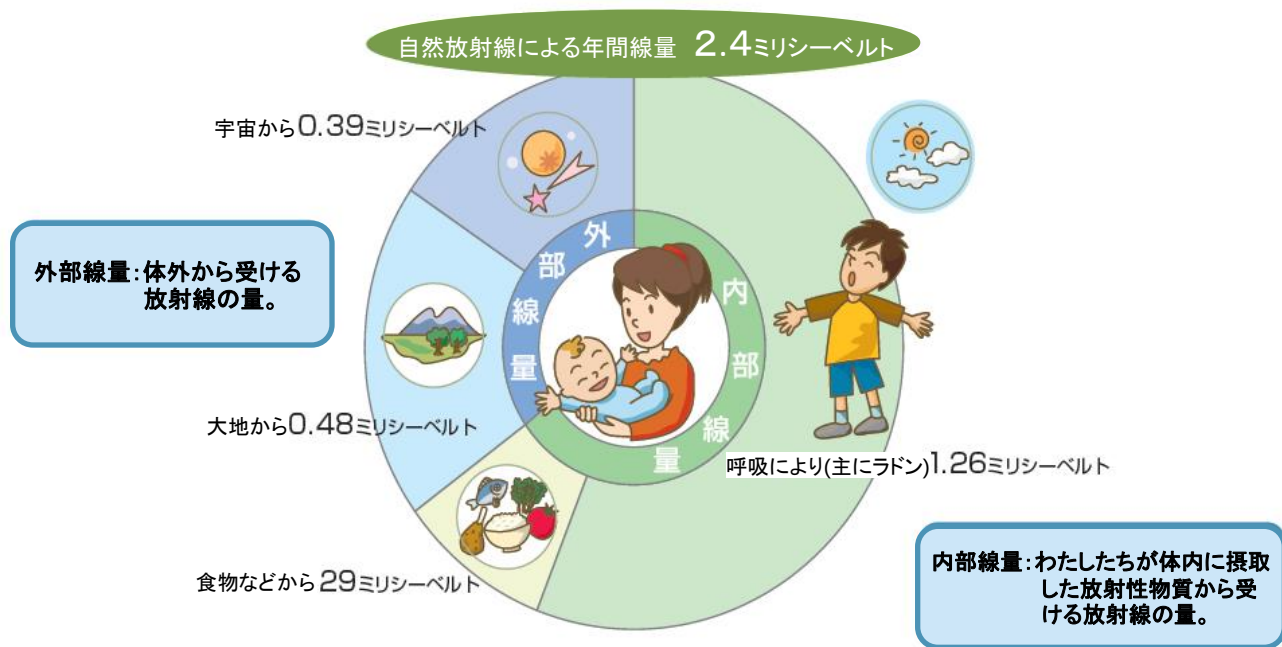
出典: 文部科学省「日常生活と放射線」、放射線医学総合研究所HPをもとに消費者庁において作成



自然放射線から受ける線量

- 自然界には様々な放射線が存在し、年間2.4ミリシーベルト程度被ばく。
- 我々は、体外だけでなく、体内からも、日常的に放射線を被ばく。

■わたしたちが1年間に受ける自然放射線 ■ 一人当たり年間線量(世界平均)



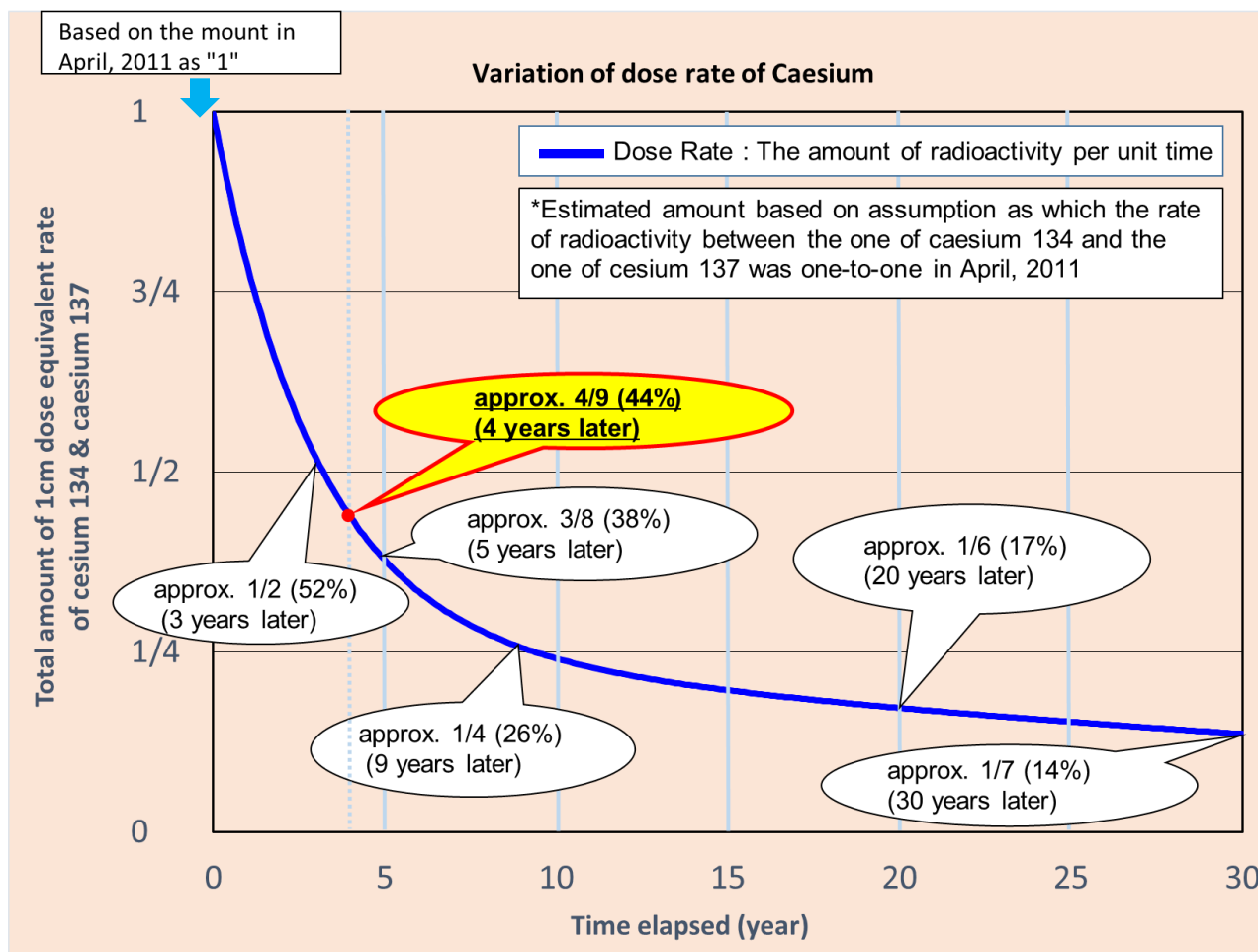
出典: 資源エネルギー庁「放射線とくらし」

自然界には様々な放射線が存在。科学的に正確に言えば、我々は、体の外部からも内部からも日常的に常に放射線を被ばくしている。

自然界にもともと存在する放射線を自然放射線というが、その自然放射線から受ける放射線量は、世界平均で年間約2.4ミリシーベルトである。

放射性セシウム(Cs134 、 Cs137)の線量率の減少

- 放射性セシウムは2種類(Cs-137 :半減期約30年、 Cs-134 :半減期約2年)
- 震災直後のセシウム137とセシウム134の割合をおおよそ1:1として、その後、放射性物質の移動による減少がないと仮定し、半減期での減衰だけを考慮した試算では、セシウムの線量率は、3年後に約2分の1、4年後に約9分の4、5年後に約8分の3、9年後に約4分の1、30年後に約7分の1に減少すると推測される。
- 但し、降雨等の影響(ウェザリング効果)により、僅かながら速く、減少すると考えられる。



2. 食品の安全性確保への取組



食品モニタリングに基づく適正な流通管理

MAFF

- 国際的な考え方に準拠した基準に基づく食品モニタリング検査を実施。
- 基準値を超過した食品は、出荷制限措置等を講じ、市場へ流通しないよう取り組んでいる。

《日本の放射性セシウムの基準値》

食品群	基準値※ (Bq/kg)
飲料水	10
牛乳	50
乳児用食品	50
一般食品	100

(※)コーデックス委員会の指標である年間線量1ミリシーベルトに基づき、2012年4月に施行。

- 震災直後からこれまでに、約100万件以上のモニタリング検査を実施。また、コメについては、3,200万点以上の全袋検査を実施。(2015年4月現在)
- 基準値を超える割合は減少。2014年度(2014年4月～2015年3月)は、全体の約0.2%。なお、基準値を超えた農産物はわずか。基準値超過事例のほとんどは野生のキノコや鳥獣肉などである。
- 基準値を超える食品が見つかった場合は、出荷制限措置等により、市場へ流通しないよう対応。



基準値を上回ったときの対応（出荷制限・摂取制限）

MAFF

●基準値を超過した食品は、出荷制限措置等を講じ、市場へ流通しないよう取り組んでいる。

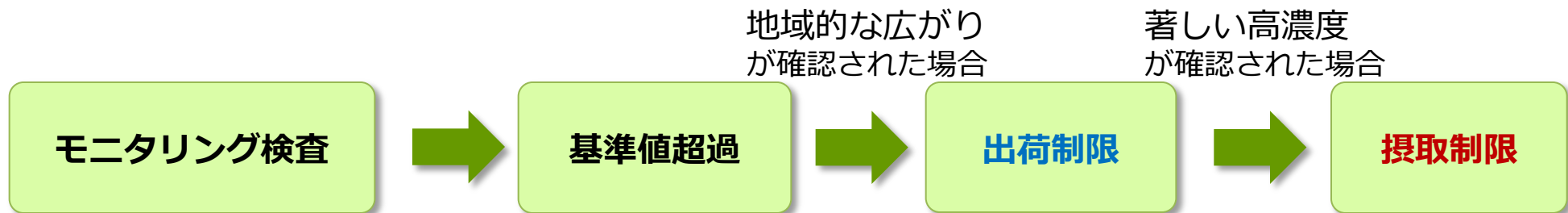
- 原子力災害対策特別措置法に基づく指示
- 地域的な広がりが確認された場合に「**出荷制限**」
- 著しく高濃度の値が検出された場合は「**摂取制限**」

■ 出荷制限・摂取制限の品目・区域の設定条件

- 地域的な広がりが確認された場合に、地域・品目を指定して設定。
- 地域は、都道府県域を原則。ただし、自治体による管理が可能であれば、管理状況等を考慮し、市町村・地域ごとに細分して区域を設定。

■ 出荷制限・摂取制限の品目・区域の解除

- 当該自治体からの申請による。
- 解除対象の区域は、集荷実態等を踏まえ複数区域に分割が可能。
- 直近 1 ヶ月以内の検査結果が、1 市町村当たり、3 か所以上、すべて基準値以下 など



*食品中の放射性物質検査は主として出荷前の段階において実施されています。

基準値を超過するものは、出荷制限が指示されている地域のものがほとんどであり、廃棄等の適切な措置が取られます。

*出荷制限が指示された品目・区域については、家庭で栽培・採取された場合にも、

比較的多くの放射性物質が含まれている可能性がありますので、頻繁に食べることは避けてください。

出典: 厚生労働省



食品の安全性確保の取組みへのIAEAの評価

MAFF

- IAEA報告書(2015年2月版)は、「我が国のモニタリングや放射性物質汚染食品への対応は適切であり、フードチェーンは管理されている」と、日本の取組みをポジティブに評価。

The IAEA continues to consider that systems are in place and are being implemented that prevent food and agricultural products with levels of caesium radionuclides in excess of the national regulatory limits from entering the food supply chain.

Food restrictions continue to be revised and updated as necessary, in line with food sampling and monitoring, and this indicates the continued Vigilance of the authorities in Japan and their commitment to protecting consumers and trade.

Based on the information that has been made available, the Joint FAO / IAEA Division understands that the measures taken to monitor and respond to issues regarding radionuclide contamination of food are appropriate, and that the food supply chain is under control.

(和訳)

- IAEAは、セシウムの法定基準値を超えた食品及び農産物が、供給網に入ることを防ぐ仕組みが導入されていると認識。
- 食品の流通規制に係る情報が更新されていることは、注意深く監視を継続し、また消費者及び通商を守ろうとする日本の当局の責任ある姿勢を示している。
- FAO/IAEA合同部門は、食品のモニタリング及び食品の放射能汚染に関する事項への対応のためにとられた措置は適切であり、また、食品供給網はコントロールされていると理解している。



食品モニタリング結果(基準値超過率の年次推移)

MAFF

- 2014年4月～2015年1月までの基準値超過は447件(0.17%)
- 2012年度は、0.86%、2013年度は0.31%、2014年度(1月まで)は0.17%と、年々減少傾向。

All Prefectures	2012.04～2013.03			2013.04～2014.03			2014.04～2015.01		
	No. of samples	No. of samples more than the standard	Excess ratio	Number of samples	No. of samples more than the standard	Excess ratio	Number of samples	No. of samples more than the standard	Excess ratio
Grains	19,488	127	0.65%	12,573	83	0.66%	5,456	2	0.04%
Vegetables	19,209	7	0.04%	21,104	0	0.00%	15,079	0	0.00%
Fruits	5,647	15	0.27%	5,397	0	0.00%	3,869	0	0.00%
Edible Fungi (cultivated)	4,397	328	7.46%	4,031	9	0.22%	3,729	7	0.19%
Fishery products (other than freshwater)	18,919	835	4.41%	20,444	194	0.95%	17,021	42	0.25%
Fishery products (freshwater)	3,394	246	7.25%	3,385	105	3.10%	2,797	42	1.50%
Cattle meat	190,677	6	0.00%	232,337	0	0.00%	189,986	0	0.00%
Livestock products (other than cattle meat)	2,189	2	0.09%	2,285	0	0.00%	1,390	0	0.00%
Game meat	1,375	519	37.75%	1,360	394	28.97%	1,122	249	22.19%
Wild plants and wild edible fungi	2,488	274	11.01%	3,688	186	5.04%	3,862	97	2.51%
Milk・Infants Use	5,259	0	0.00%	5,082	0	0.00%	3,567	0	0.00%
Tea and drinking Water	1,689	13	0.77%	1,142	0	0.00%	677	0	0.00%
Processed foods	8,592	69	0.80%	10,031	25	0.25%	7,546	8	0.11%
Unclassified	0	0	0%	0	0	0%	0	0	0%
Total	283,323	2,441	0.86%	322,859	996	0.31%	256,101	447	0.17%

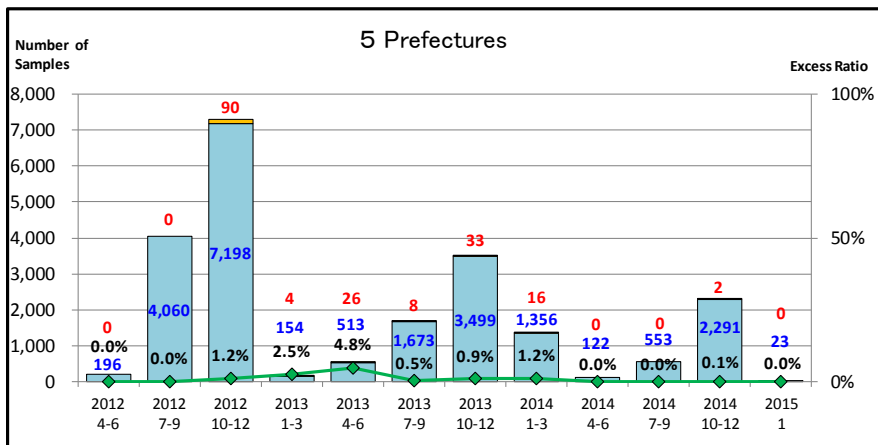
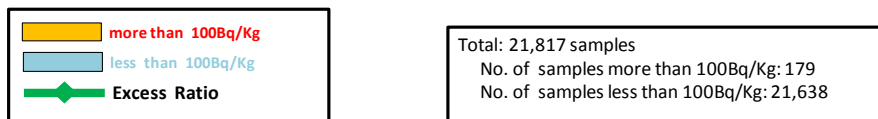
※The standard limits are 100Bq/kg (except Milk・Infants Use (50Bq/kg), Tea and drinking Water (10Bq/kg)).



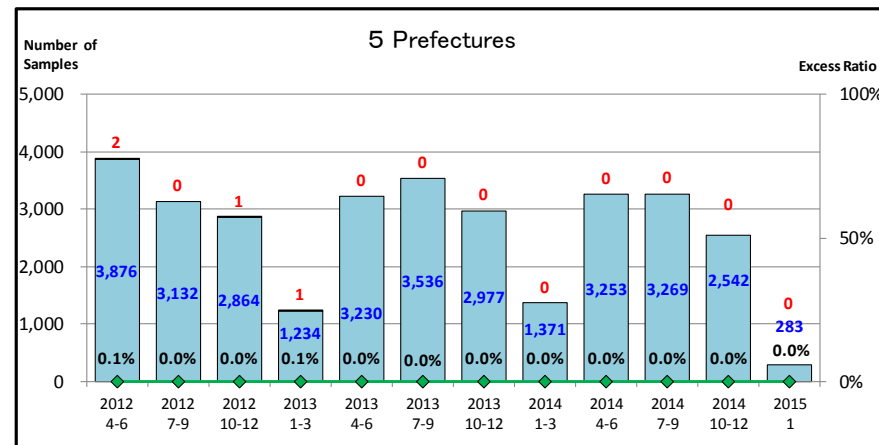
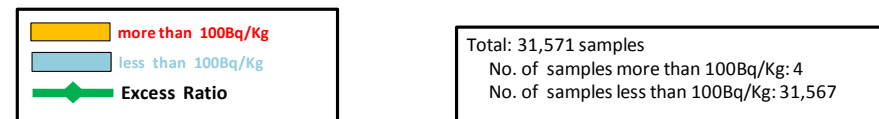
食品モニタリング結果(基準値超過率の4半期別推移)①

MAFF

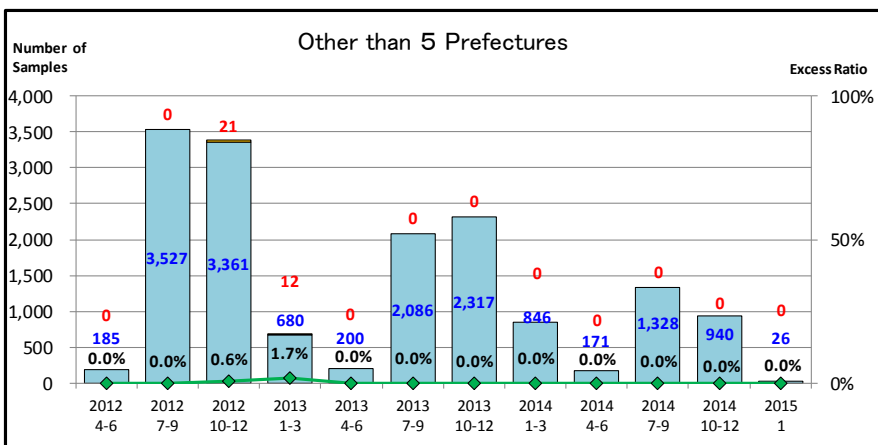
Grains



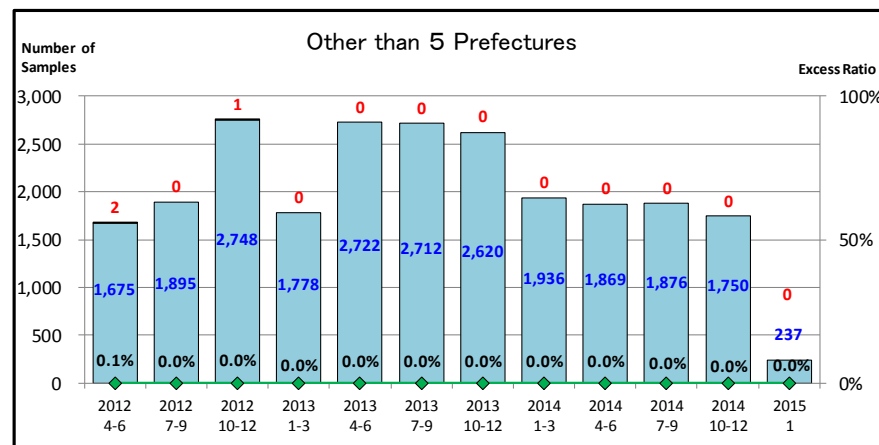
Vegetables



Total: 15,700 samples
No. of samples more than 100Bq/Kg: 33
No. of samples less than 100Bq/Kg: 15,667



Total: 23,821 samples
No. of samples more than 100Bq/Kg: 3
No. of samples less than 100Bq/Kg: 23,818

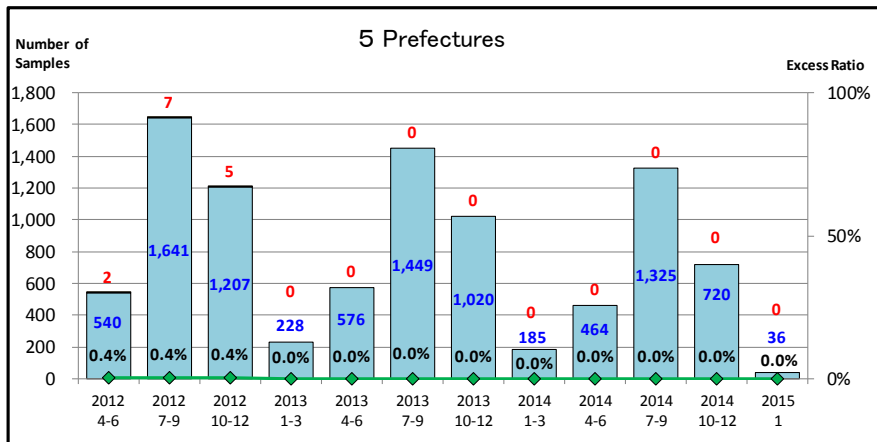
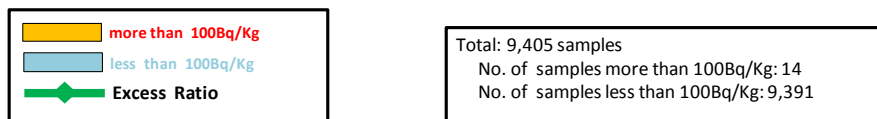




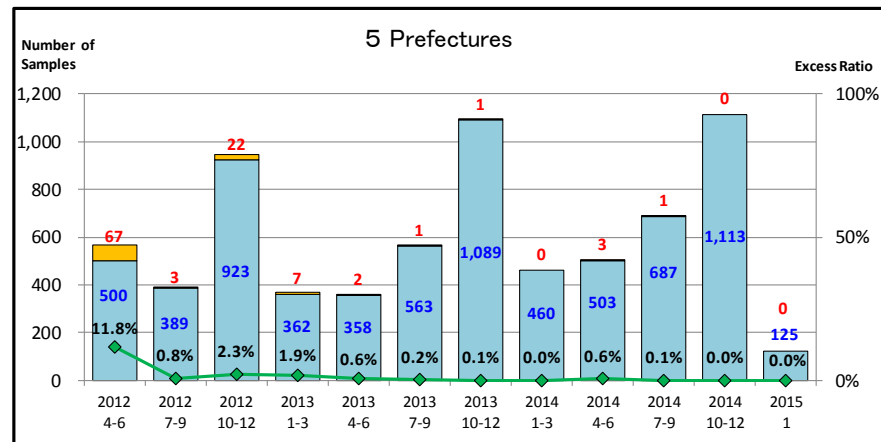
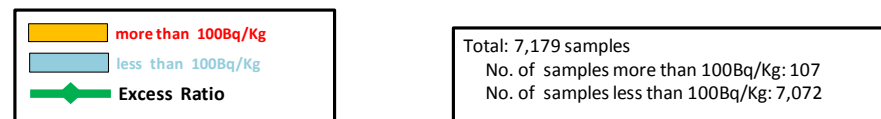
食品モニタリング結果(基準値超過率の4半期別推移)②

MAFF

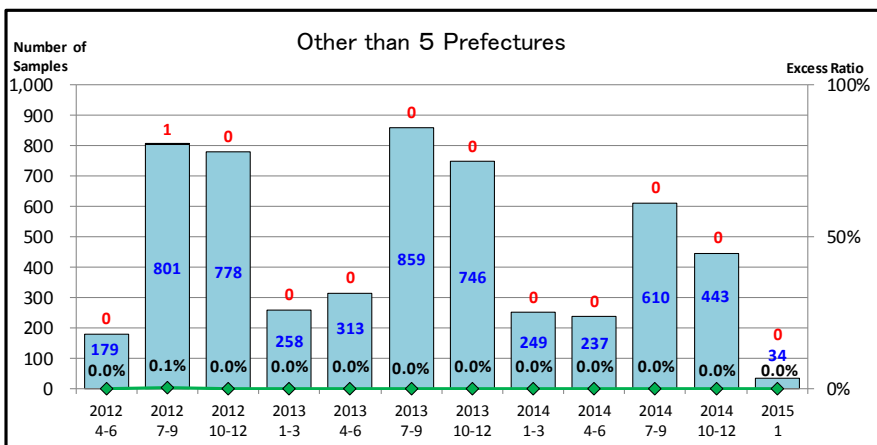
Fruits



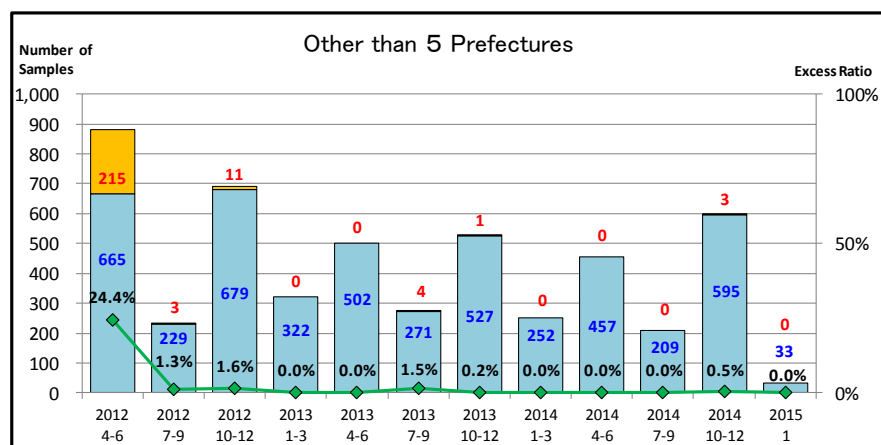
Edible Fungi(cultivated)



Total: 5,508 samples
No. of samples more than 100Bq/Kg: 1
No. of samples less than 100Bq/Kg: 5,507



Total: 4,978 samples
No. of samples more than 100Bq/Kg: 237
No. of samples less than 100Bq/Kg: 4,741

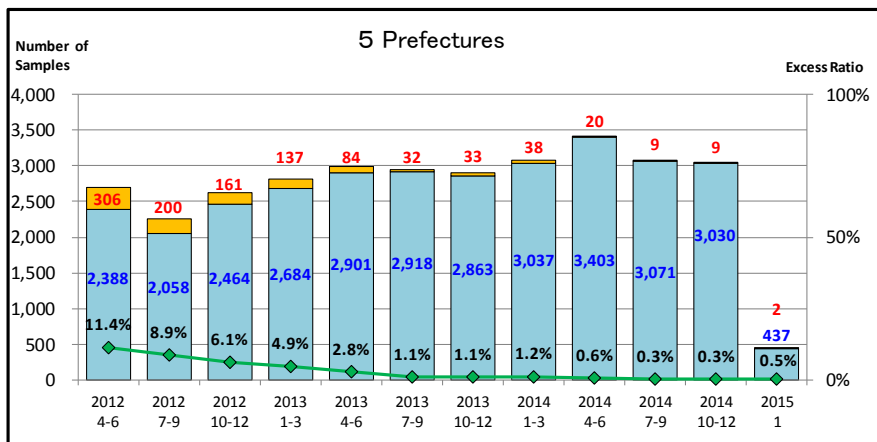
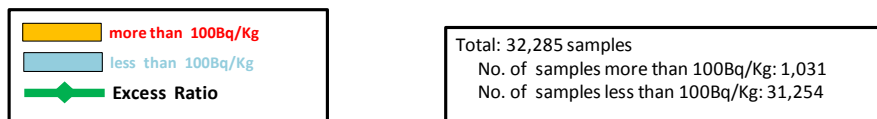




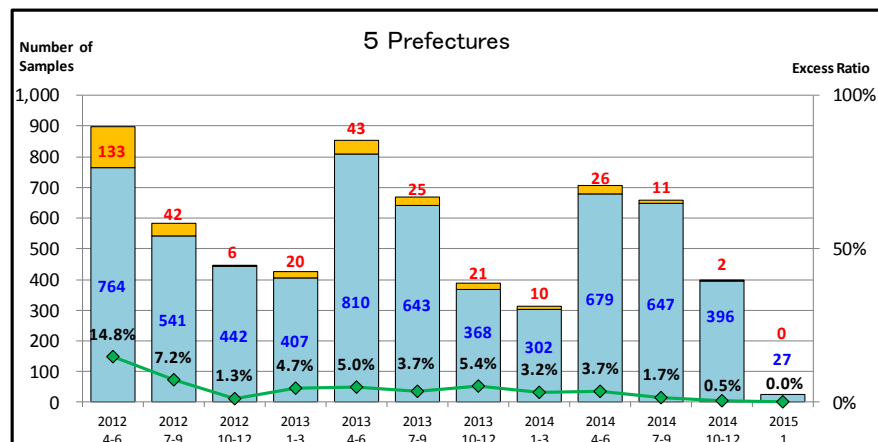
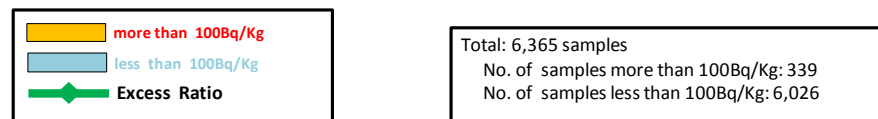
食品モニタリング結果(基準値超過率の4半期別推移)③

MAFF

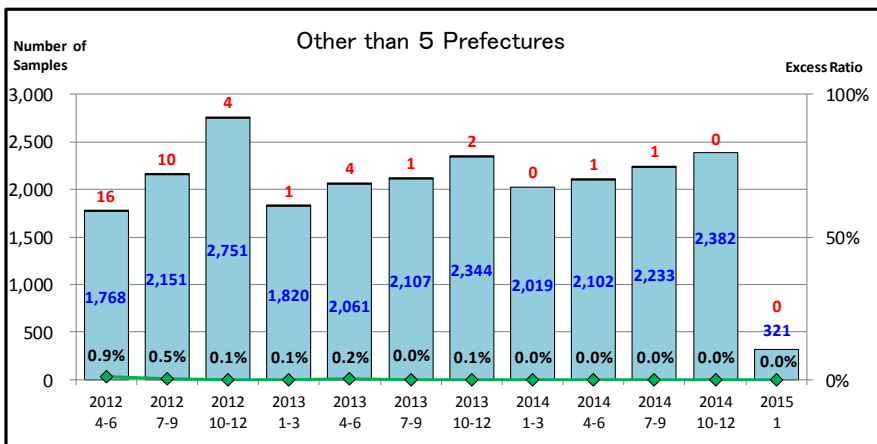
Fishery products(other than freshwater)



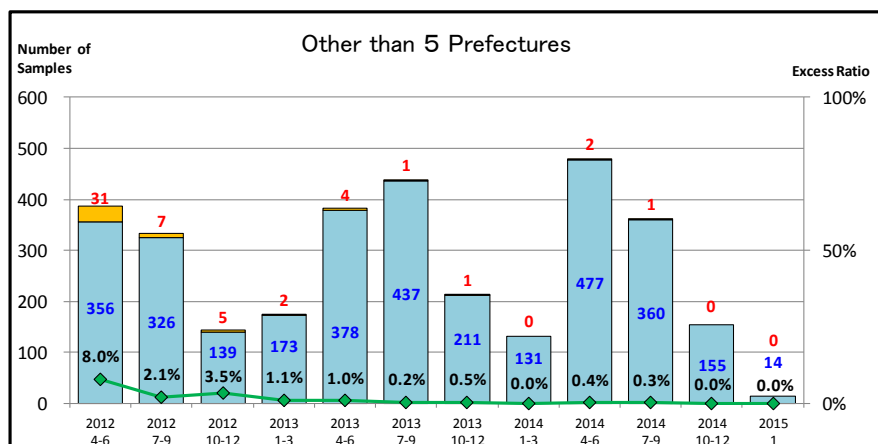
Fishery products(freshwater)



Total: 24,099 samples
No. of samples more than 100Bq/Kg: 40
No. of samples less than 100Bq/Kg: 24,059



Total: 3,211 samples
No. of samples more than 100Bq/Kg: 54
No. of samples less than 100Bq/Kg: 3,157

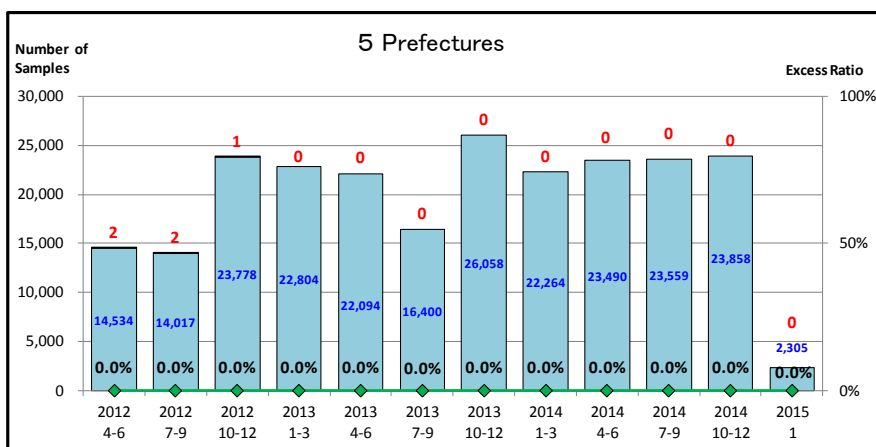
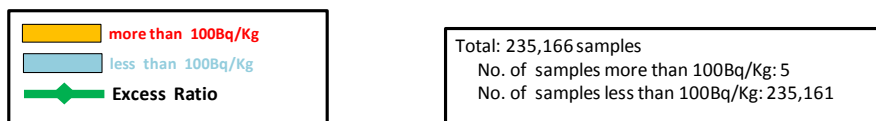




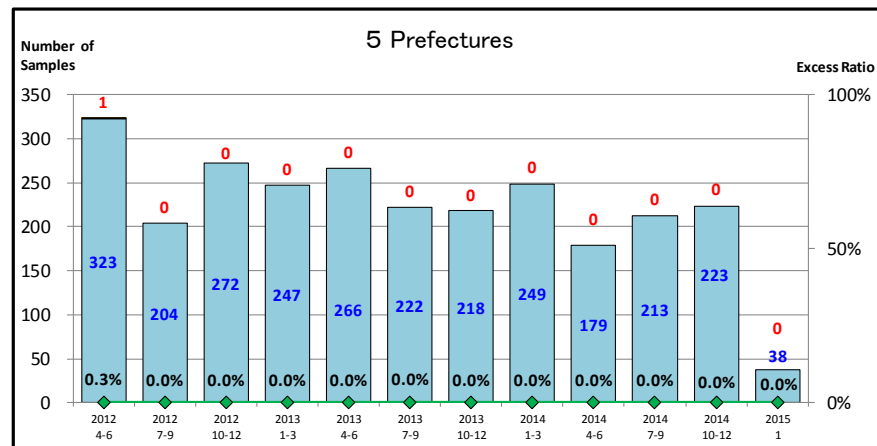
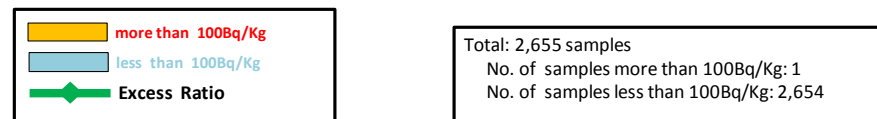
食品モニタリング結果(基準値超過率の4半期別推移)④

MAFF

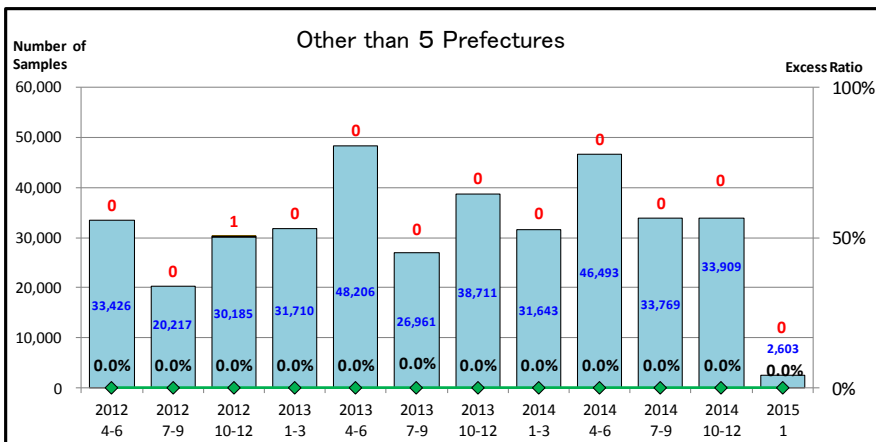
Cattle meat



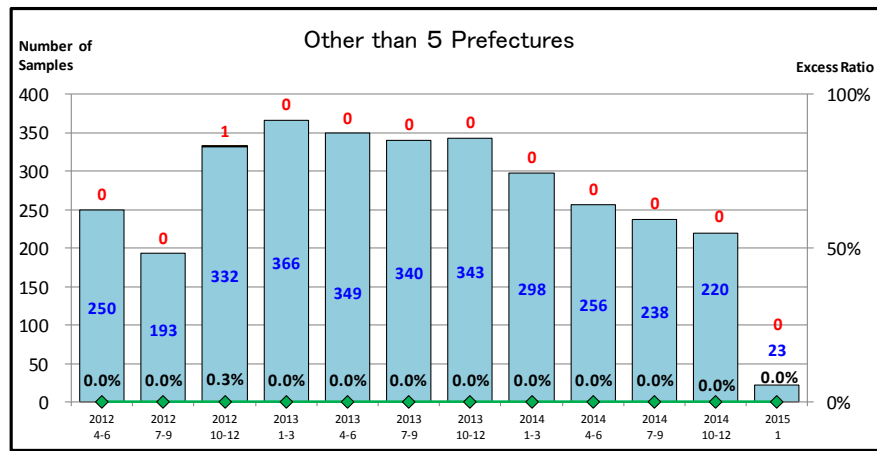
Livestock products(other than cattle meat)



Total: 377,834 samples
No. of samples more than 100Bq/Kg: 1
No. of samples less than 100Bq/Kg: 377,833



Total: 3,209 samples
No. of samples more than 100Bq/Kg: 1
No. of samples less than 100Bq/Kg: 3,208

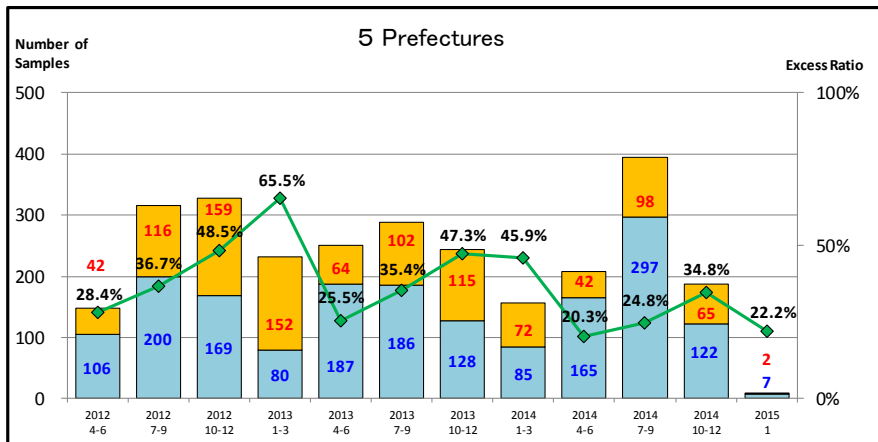
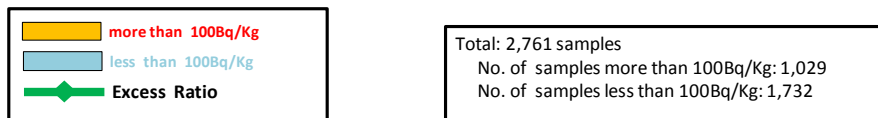




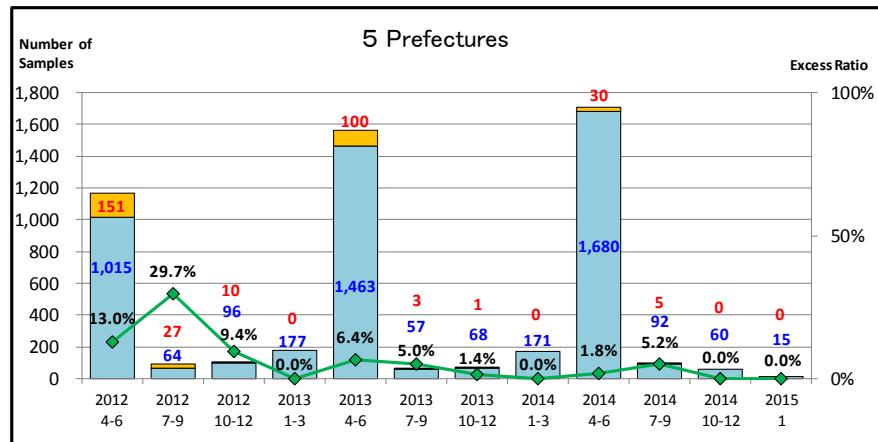
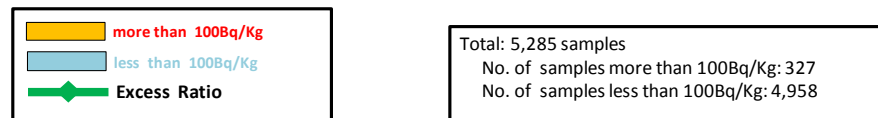
食品モニタリング結果(基準値超過率の4半期別推移)⑤

MAFF

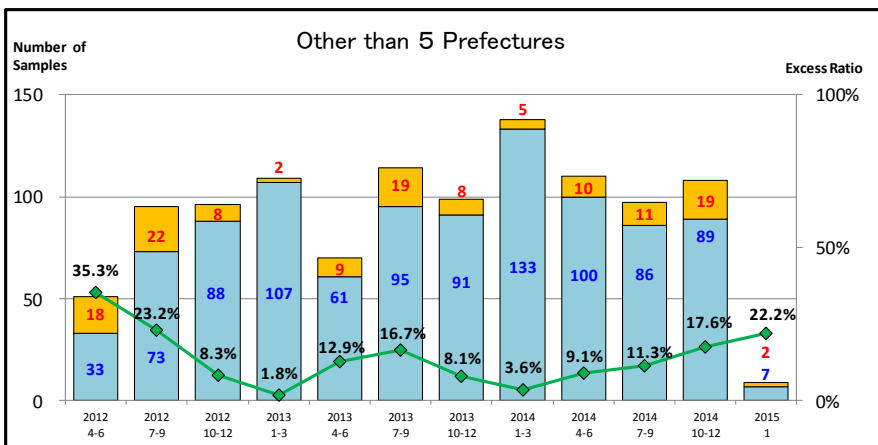
Game meat



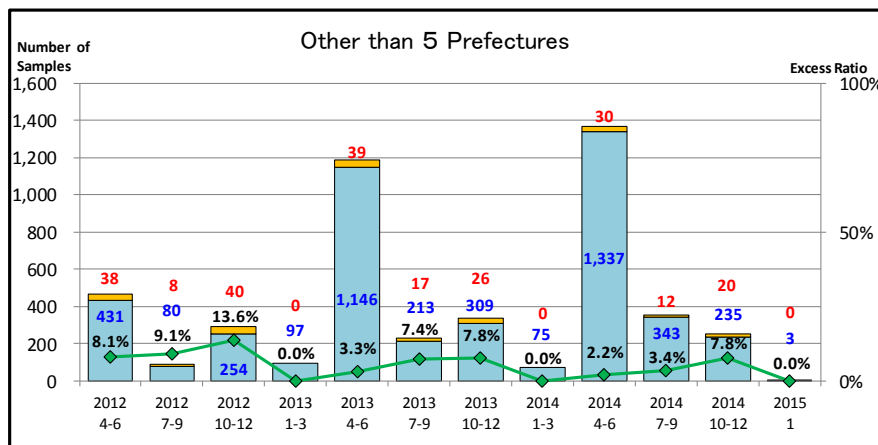
Wild plants and wild edible fungi



Total: 1,096 samples
No. of samples more than 100Bq/Kg: 133
No. of samples less than 100Bq/Kg: 963



Total: 4,753 samples
No. of samples more than 100Bq/Kg: 230
No. of samples less than 100Bq/Kg: 4,523

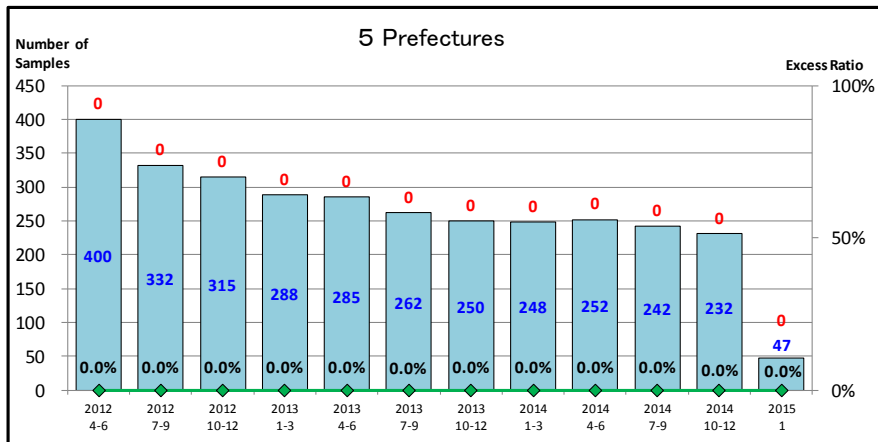
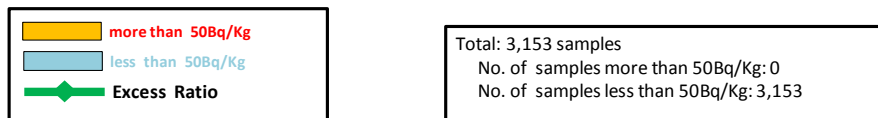




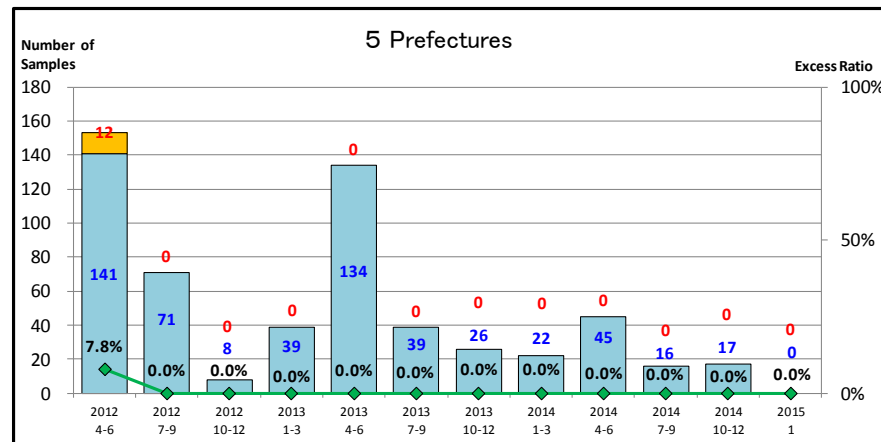
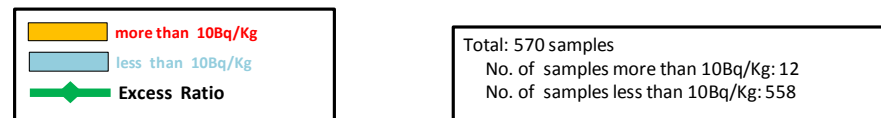
食品モニタリング結果(基準値超過率の4半期別推移)⑥

MAFF

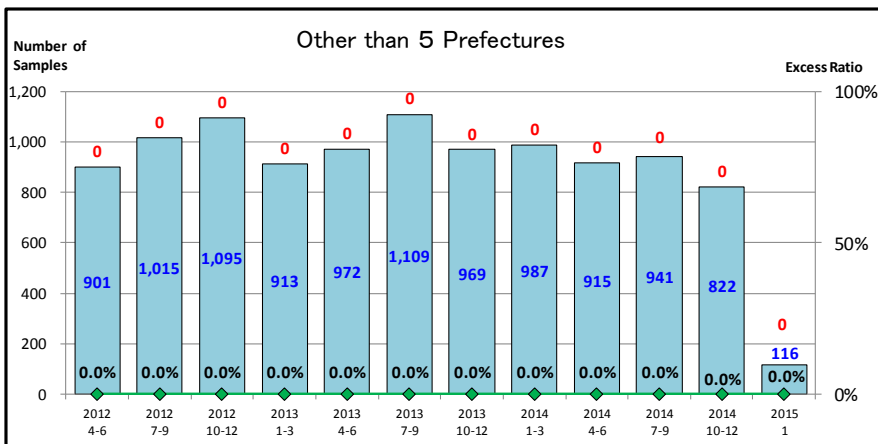
Milk・Infants Use



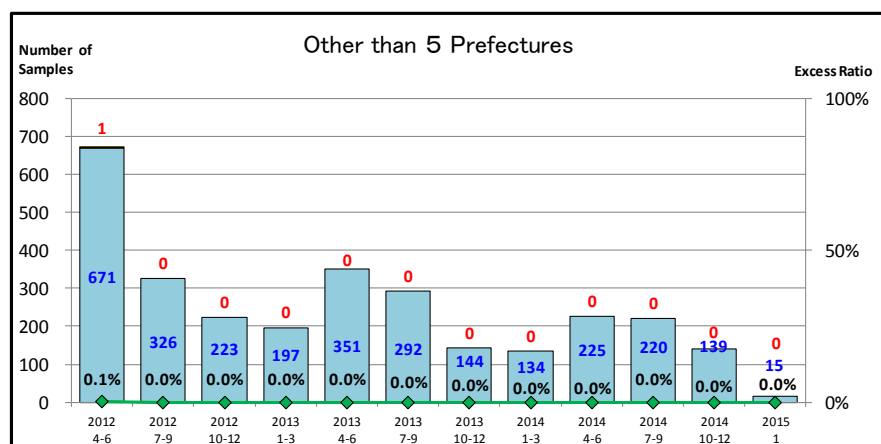
Tea and drink Water



Total: 10,755 samples
No. of samples more than 50Bq/Kg: 0
No. of samples less than 50Bq/Kg: 10,755



Total: 2,938 samples
No. of samples more than 10Bq/Kg: 1
No. of samples less than 10Bq/Kg: 2,937

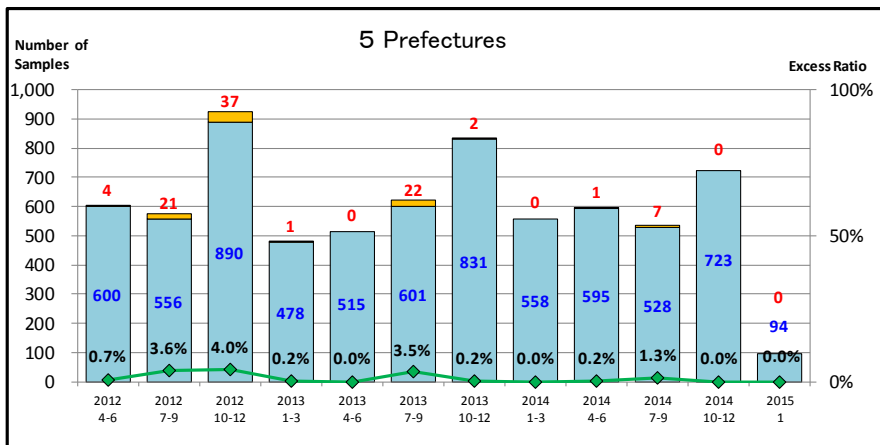
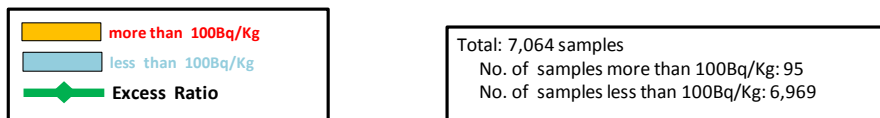




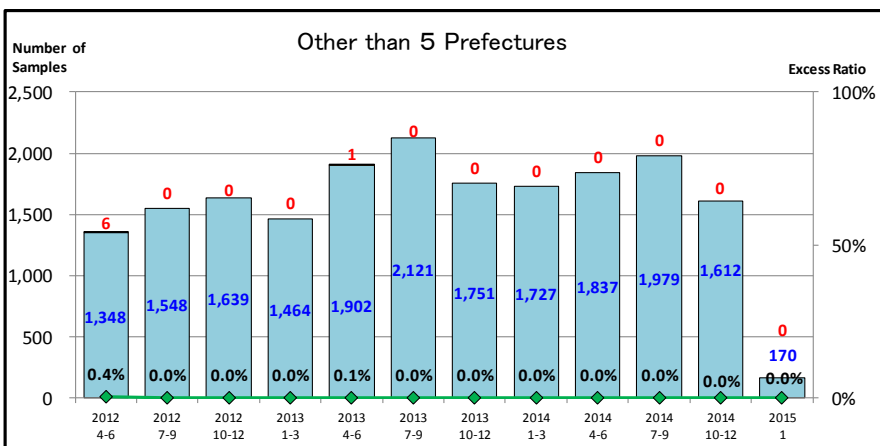
食品モニタリング結果(基準値超過率の4半期別推移)⑦

MAFF

Processed food



Total: 19,105 samples
No. of samples more than 100Bq/Kg: 7
No. of samples less than 100Bq/Kg: 19,098

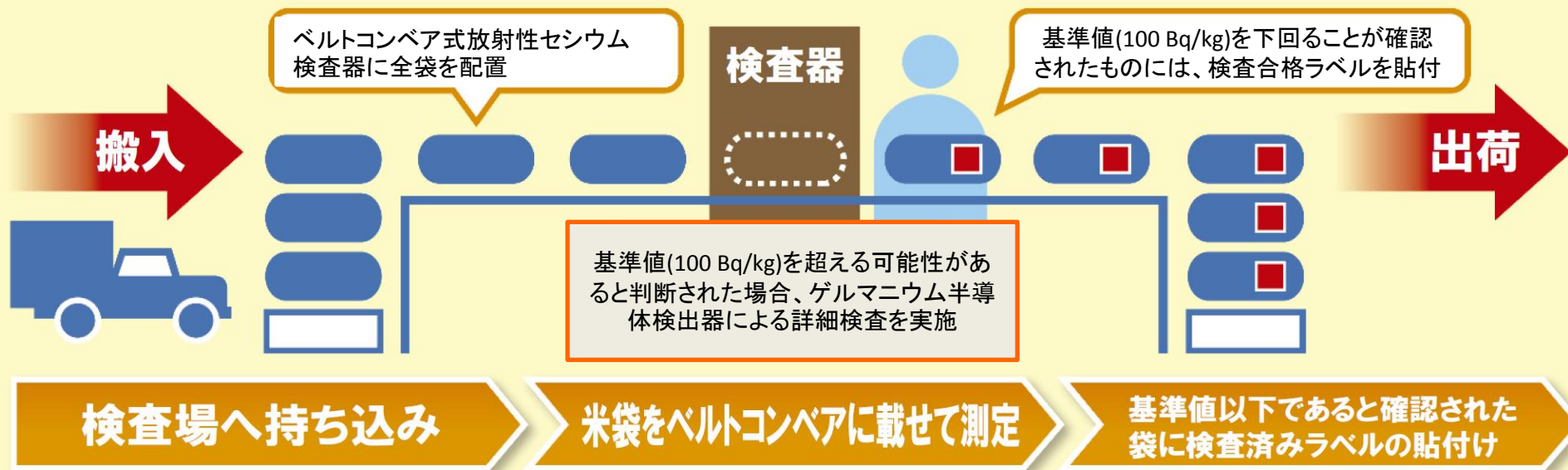




福島県産米の全袋検査の概要

MAFF

- 福島県産米は、2012年産米より、世界初となる全袋検査を実施し、年間1,000万袋以上のサンプル検査を実施。
- 当該検査により、安全が確認されたものだけが出荷され、基準値を超過したものは隔離・保管を実施。



福島県産米の全袋検査の結果(H24年産～26年産)

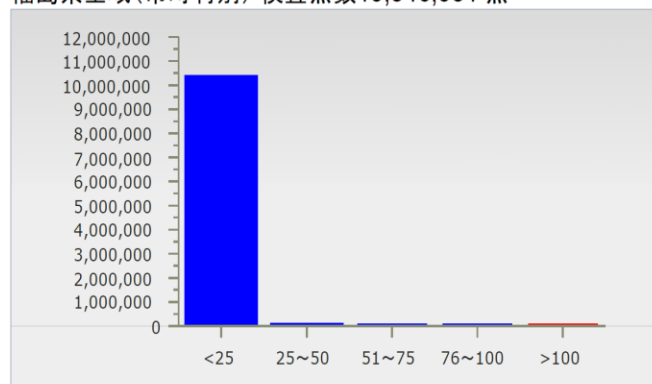
- 2012年産米は71件、2013年産米では28件の基準値超過事例があったが、市場へは流通していない。
- 2014年産米については、2015年5月9日現在、基準値を超過したものはない。

集計結果 平成24年産 検査期間: 2012年08月25日～2015年01月13日

集計結果 平成25年産 検査期間: 2013年08月22日～2015年03月26日

集計結果 平成26年産 検査期間: 2014年08月21日～2015年05月09日

福島県全域(市町村別) 検査点数10,346,081点



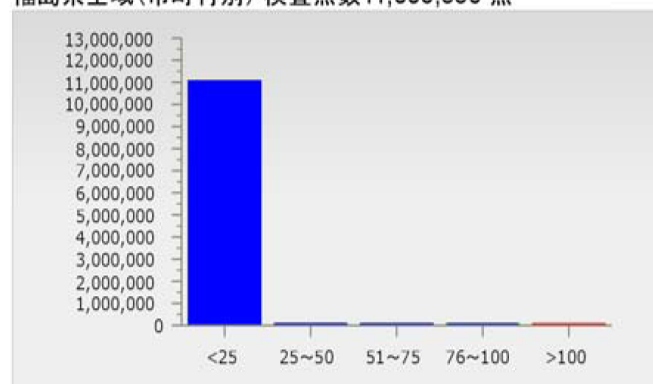
＜スクリーニング検査＞

	測定下限値 未満(<25)	25～50 μクレル/kg	51～75 μクレル/kg	76～100 μクレル/kg	計
検査点数	10,323,442	20,317	1,383	72	10,345,214
割合	99.78 %	0.2 %	0.01 %	0.0007 %	99.99 %

＜詳細検査＞

	25未満 μクレル/kg	25～50 μクレル/kg	51～75 μクレル/kg	76～100 μクレル/kg	100μクレル /kg超	計
検査点数	144	40	295	317	71	867
割合	0.0014 %	0.0004 %	0.0029 %	0.0031 %	0.0007 %	0.0084 %

福島県全域(市町村別) 検査点数11,006,550点



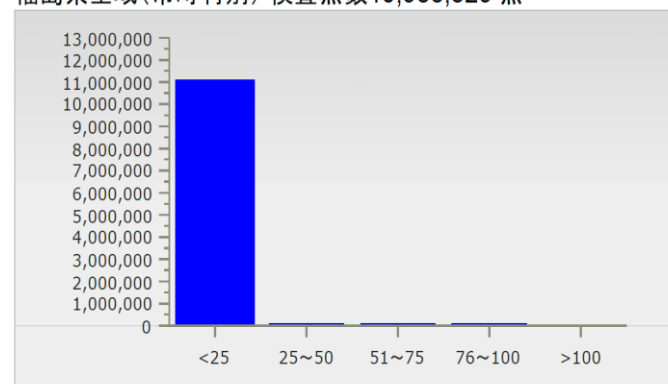
＜スクリーニング検査＞

	測定下限値 未満(<25)	25～50 μクレル/kg	51～75 μクレル/kg	76～100 μクレル/kg	計
検査点数	10,999,154	6,478	224	1	11,005,857
割合	99.93 %	0.06 %	0.002 %	0.00001 %	99.99 %

＜詳細検査＞

	25未満 μクレル/kg	25～50 μクレル/kg	51～75 μクレル/kg	76～100 μクレル/kg	100μクレル /kg超	計
検査点数	68	6	269	322	28	693
割合	0.0006 %	0.0001 %	0.0024 %	0.0029 %	0.0003 %	0.0063 %

福島県全域(市町村別) 検査点数10,985,829点



＜スクリーニング検査＞

	測定下限値 未満(<25)	25～50 μクレル/kg	51～75 μクレル/kg	76～100 μクレル/kg	計
検査点数	10,983,879	1,909	11	1	10,985,800
割合	99.98 %	0.02 %	0.0001 %	0.00001 %	100 %

＜詳細検査＞

	25未満 μクレル/kg	25～50 μクレル/kg	51～75 μクレル/kg	76～100 μクレル/kg	100μクレル /kg超	計
検査点数	27	0	1	1	0	29
割合	0.0003 %	0 %	0.00001 %	0.00001 %	0 %	0.0003 %

- ・このグラフは、便宜上、スクリーニング検査と詳細検査の結果を合算しております。なお、詳細検査を実施したものは、その結果を反映させています。
- ・放射性セシウムは、セシウム134とセシウム137の合計値。
- ・割合は、スクリーニング検査と詳細検査の合計点数に対する割合であり、小数点第2位、第4位及び第5位未満を四捨五入しています。

福島県による緊急時環境放射線モニタリング検査によって出荷物の安全性を確認するほか、各産地においてもサンプル検査(NaIシンチレーションスペクトロメータ等による※)を実施し、野菜・果物の安全性を確保しています。

※厚生労働省が定める「食品中の放射性セシウムスクリーニング法」に基づき実施しています。

検査の流れ

〈サンプルを細かく粉砕して容器に詰め測定します〉



分析用サンプルの粉砕

容器への詰め込み

分析器へ設置・測定

もっと詳しく!

検査結果

ふくしま新発売

検索

復興情報

ふくしま復興ステーション

検索



福島県の食品安全性確保へ向けた取組(牛肉)

MAFF

適正な管理が確認できた生産者が出荷します。

出荷する牛は全頭検査を実施しています。

検査に合格した牛肉のみが市場に流通します。

牛の全頭検査体制



もっと詳しく!

検査結果

ふくしま新発売

検索

復興情報

ふくしま復興ステーション

検索



福島県
Fukushima Prefecture

出典: 福島県庁



福島県の食品安全性確保へ向けた取組(水産物)

MAFF

- ✓ 福島県は、週あたり約180検体の水産物中の放射性セシウムのモニタリング検査を実施。(出荷制限海域を含む全ての魚種は、ゲルマニウム検査機器を使用し、正確な放射性セシウムレベルを測定)
- ✓ 海域及び漁法を限定し、2012年6月に操業を開始した「試験操業」の対象魚種の放射性セシウムは、安定して基準値を下回っている。福島第一原発から半径20km以内の海域は、操業区域から除外されている。
- ✓ さらに、福島県の取組として、出荷前のスクリーニング検査を実施し、50Bq/kg以上の放射性セシウムが検出された場合は、出荷を自粛。

1. 厳格なモニタリング検査

2. 試験操業

(2014年末現在)

福島県の調査船



同じ地点で定期的なサンプリングを実施

180検体／週(海水魚)



漁業者：漁船



漁期に合わせた対象種及び漁業種類を適切に設定

◆対象種: 57種

＜底引き網: 57種＞ ミズダコ、スルメイカ他

＜沖合タコカゴ: 57種＞ ミズダコ、ヤナギダコ他

＜船びき網: 4種＞ コウナゴ、シラス、サヨリ、イシカワシラウオ

＜固定式さし網: 57種＞ イシカワシラウオ、ヒラツメガニ、ガザミ、シロザケ他

＜沿岸カゴ: 57種＞ ヒラツメガニ、ワタリガニ、マダコ、ツブ貝他

＜潜水: 1種＞ アワビ

＜貝桁網: 1種＞ ホッキガイ

＜流し網: 57種＞ マイワシ、マサバ、ゴマサバ、ブリ、マアジ他



放射性セシウム検査
(福島県農業総合センター)

福島県では、県によるモニタリング検査や産地での自主検査などの検査だけでなく、生産段階においても様々な取組を実施しています。

除染等の対策

反転耕

表層土を下層に、下層土を表層に土層を反転させます。



深耕

通常よりも深く、30cm程度の深さまで耕します。



表土の削り取り

未耕起のほ場を対象に、重機などを使用し、一定の厚さの表土を削り取ります。



樹皮の洗浄・粗皮削りなど

粗皮が形成されにくい樹種など(モモ、オウトウ、ウメ、リンゴやナシなどの若木)では、高圧洗浄機を利用して樹皮を洗浄することで、樹皮に付着した放射性物質を約55%除去できます。

また、粗皮が形成されて取り除くことが可能な果樹(ブドウ、カキ、リンゴ、ナシ)で粗皮削りや粗皮剥ぎをすることにより、汚染程度は80~90%軽減できます。



放射性セシウム吸収抑制対策

カリウムの施肥

カリウムが欠乏した土壌では、放射性セシウムの吸収量が増加することが知られています。

水稲では、基肥や追肥でカリウムを多めに施用することを勧めています。施用においては、土壌診断の結果などを踏まえ、地域に適した量と方法を指導しています。

野菜・果樹では、カリウムは過剰傾向にあることが多いので、土壌診断結果などにより判断するよう、指導しています。



畜産分野での対策

飼養状況確認調査

福島県の職員による立入調査が行われ、適切な飼養管理であることが確認されています。



もっと詳しく!

復興情報

ふくしま復興ステーション

検索

3. 環境汚染に対する取組強化



福島第一原発専用港湾内への汚染水漏洩による影響について

MAFF

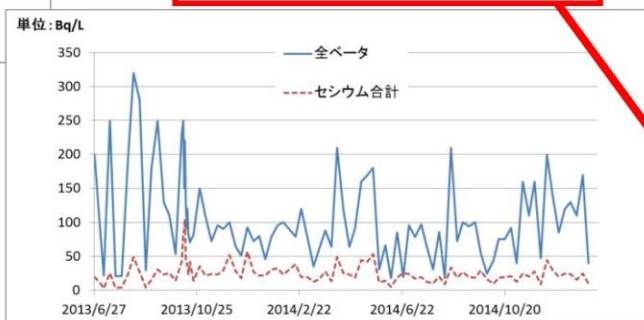
- 平成25年5月、1、2号機取水口間護岸地下水から高濃度のトリチウムが検出されたことを受け、東京電力が当該護岸に滞留する地下汚染水の調査を実施。平成25年7月末、当該護岸から汚染水が港湾へ流出していることを確認。
- 港湾内の海水からは放射性物質が若干検出されるものの、外側の海水ではほとんどが検出限界未満であり、影響は限定的。
- 東京電力は、平成25年2月以降、港湾口に魚類移動防止用網を設置するとともに、港湾内に生息する魚類等の駆除を実施中(参考:東京電力HP)。



検出限界値未満(ND)となった測定に対しては、検出限界値をプロットした。

港湾口

1～4号機取水口内北側
(東波除堤北側)



南放水口付近

2011年4月の汚染水漏洩と、東京電力が試算した2011年5月以降の汚染水漏洩における、放射性物質漏洩量の比較

放射性核種	2011年4月の漏洩量		東京電力の試算による 2011年5月以降の漏洩量	
	漏洩期間	漏洩量 (単位:ベクレル)	漏洩期間	漏洩量 (単位:ベクレル)
セシウム134+137	6日間	1,800兆	—	—
セシウム137	6日間	940兆	約800日間	約1兆～約20兆
ストロンチウム90	—	—	約800日間	約7,000億～約10兆
トリチウム	—	—	約800日間	約20兆～約40兆



(注) ストロンチウム90については、1～4号機取水口内北側(東波除堤北側)で220 Bq/L(2013/8/19採取)、港湾口で49 Bq/L(2013/8/19採取)、南放水口付近で0.29 Bq/L(2013/6/26採取)検出。



福島原発の港湾における魚類の移動防止策

MAFF

- 福島第一原発の港湾に、魚類の移動防止策及び捕獲対策を講じている。
- 港湾口には、底差し網(Bottom Gillnet)及びブロックフェンス(Wire Fence)を設置し、堤防内側には仕切り網(Screen)等を設置している。

福島第一原子力発電所港湾魚類対策(実施状況)

現在実施している対策



①: 魚類移動防止

①-1: 港湾口底差し網設置、①-2: 港湾口ブロックフェンス設置、
①-3: 堤防内側仕切り網設置、①-4: 物揚場シルトフェンス/底差し網設置など

②: 魚類捕獲

②-1: カゴ漁 , ②-2: 港湾内底差し網 

出典: (株)東京電力

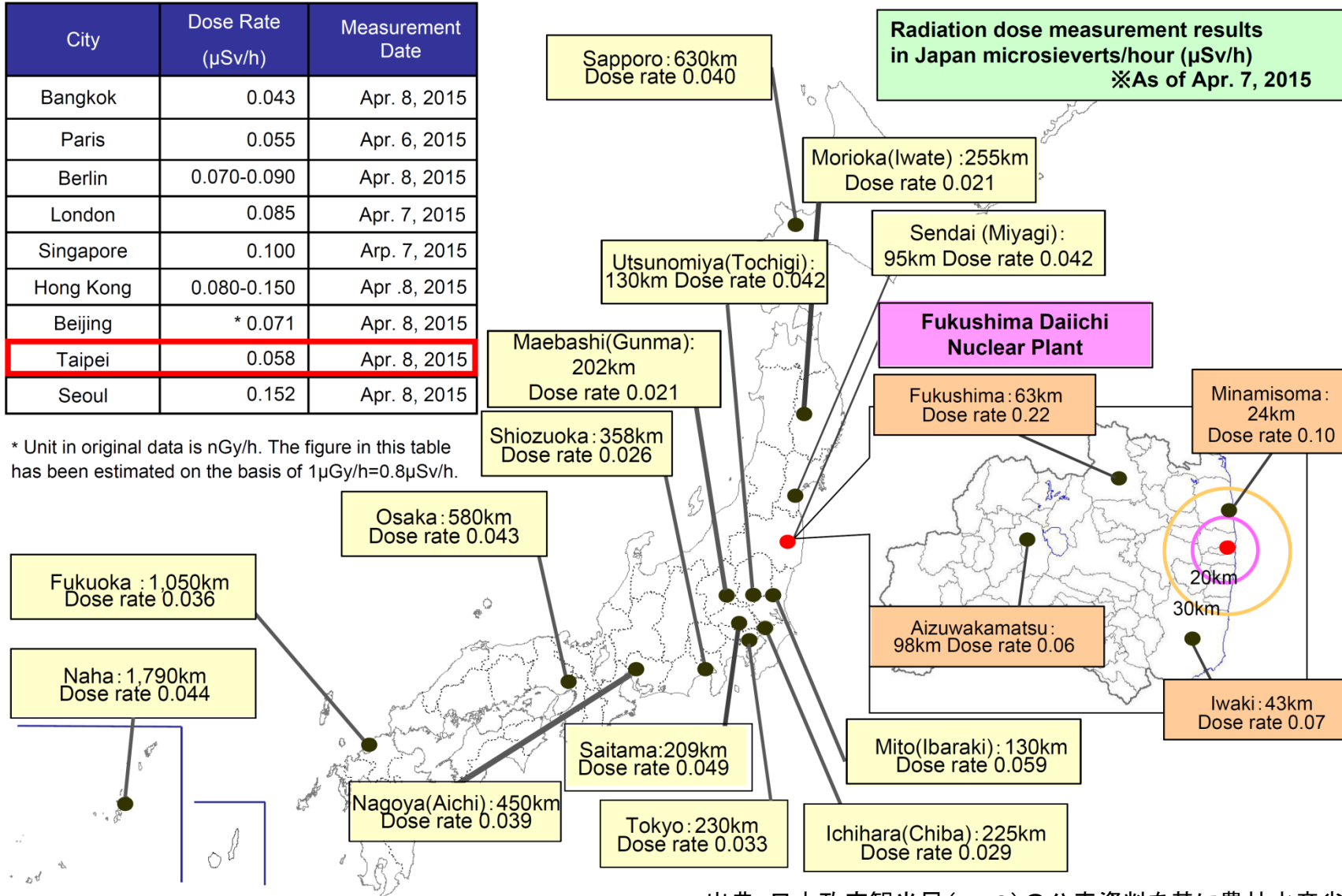


大気中の放射線モニタリング

- 福島原発近郊の都市を除き、日本各地の大気中の放射線量は、海外の主要都市とほぼ同じレベル。

City	Dose Rate ($\mu\text{Sv/h}$)	Measurement Date
Bangkok	0.043	Apr. 8, 2015
Paris	0.055	Apr. 6, 2015
Berlin	0.070-0.090	Apr. 8, 2015
London	0.085	Apr. 7, 2015
Singapore	0.100	Apr. 7, 2015
Hong Kong	0.080-0.150	Apr. 8, 2015
Beijing	* 0.071	Apr. 8, 2015
Taipei	0.058	Apr. 8, 2015
Seoul	0.152	Apr. 8, 2015

* Unit in original data is nGy/h. The figure in this table has been estimated on the basis of $1\mu\text{Gy/h}=0.8\mu\text{Sv/h}$.



4. 日本から各国への輸入規制緩和の働きかけ



日本から諸外国等への輸入規制緩和の働きかけ

MAFF

● 諸外国等に対する働きかけ

諸外国等に対し、我が国の措置や検査結果のデータの情報提供等を実施。

- 首脳会議や国際会議等の場を活用し、科学的根拠に基づく対応等を要請
- 在外公館や在京大使館を通じて、我が国で行っている検査の状況やデータ等の情報提供
- 農林水産省の大臣をはじめ、副大臣、政務官や事務方幹部を主要国に派遣して直接働きかけ

● 諸外国等の輸入規制への対応 (国内輸出事業者への支援含む)

- 諸外国等の輸入規制情報の提供
- 諸外国等の輸入規制等に関する相談窓口の設定
- 諸外国等から要求される証明書を、国が一元的に発行

● 国外における風評被害の払拭・ 輸出回復に向けた対応(情報発信)

国内における食品の安全性確保の取組及び日本産食品の魅力についての情報発信

- 新聞・TV等のメディアの活用
- 消費者向けイベントを活用



原発事故による諸外国の食品等の輸入規制撤廃・緩和の概要

MAFF

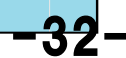
●原発事故に伴い諸外国・地域において講じられた輸入規制は、政府一体となった働きかけの結果、規制が緩和・撤廃される動き。

【規制措置が撤廃された国】

解除された年月	国名
2011年6月	カナダ
〃	ミャンマー
2011年7月	セルビア
2011年9月	チリ
2012年1月	メキシコ
2012年4月	ペルー
2012年6月	ギニア
2012年7月	ニュージーランド
2012年8月	コロンビア
2013年3月	マレーシア
2013年4月	エクアドル
2013年9月	ベトナム
2014年1月	オーストラリア
2015年5月	タイ ※一部の野生動物を除く

【最近の輸入規制緩和の例】

緩和された年月	国名	緩和の主な内容
2013年 4月	シンガポール	輸入停止(8都県)→検査証明書添付で輸入可能(7都県)
〃	ロシア	輸入停止(6都県)→検査証明書添付で輸入可能(6都県)
2013年 6月	EU	検査証明書の対象品目が縮小
2013年10月	ブルネイ	輸入停止(8都県)→検査証明書添付で輸入可能(7都県)
2014年 4月	EU	検査証明書の対象地域及び対象品目が縮小
2014年 5月	イスラエル	輸入時モニタリング検査の対象県が縮小 (47都道府県→8県)
2014年 7月	シンガポール	輸入停止(福島県)→産地証明書添付で輸入可能(福島県の一部除く) 検査証明書の対象地域及び対象品目が縮小(8都県→3県)
2014年11月	サウジアラビア	検査証明書等添付で輸入可能(47都道府県)
2014年12月	バーレーン	検査報告書(47都道府県)→輸出実績証明書で輸入可能
〃	米国	検査報告書(3県)の対象品目が縮小
〃	オマーン	検査報告書(47都道府県)→輸出実績証明書で輸入可能
2015年2月	ブルネイ	輸入停止(福島県)→検査証明書添付で輸入可能(一部品目を除く) 検査証明書(福島県以外)→産地証明書(福島県以外)
2015年3月	米国	輸入停止(福島県他3県)→解除(一部の品目、証明書添付不要) 検査報告書(3県)の対象品目が縮小





EUの食品等の輸入規制

MAFF

- 2014年4月、規制緩和を実施し、検査証明書の対象地域・品目が大幅に縮小。
- 福島県以外の茶については、産地証明書要求を撤廃（福島県産には検査証明書を要求）。
- EU通関時のモニタリング検査要件の緩和。

【Current】

	Fukushima	Iwate	Miyagi	Ibaraki	Tochigi	Gunma	Saitama	Chiba	Akita	Yamagata	Nagano	Aomori	Yamanashi	Niigata	Shizuoka	Others
Mushrooms																
Wild Plants																
Grains (Rice, Soybeans, Buckwheat)																
Fishery Products																
Vegetables & Fruits																
Meat and Poultry																
Poultry Eggs																
Milk and Infants Use																
Tea (Leaves and Infusion)																
Other Products																

	: Requiring the certificate of Pre-export testing issued by the Government of Japan.
	: Requiring the certificate of Origin.
	: Subjected to sampling test in EU



シンガポールの食品等の輸入規制

MAFF

- 2014年6月、シンガポールは規制緩和を実施し、福島県産品は、一部地域・品目を除き、輸入停止を解除（福島県全域の林産物及び水産物、原発周辺10市町村の全食品については、輸入停止を継続。）
- また、検査証明書要求対象を3県（茨城、栃木、群馬）の林産物及び水産物へ縮小。

【Current】

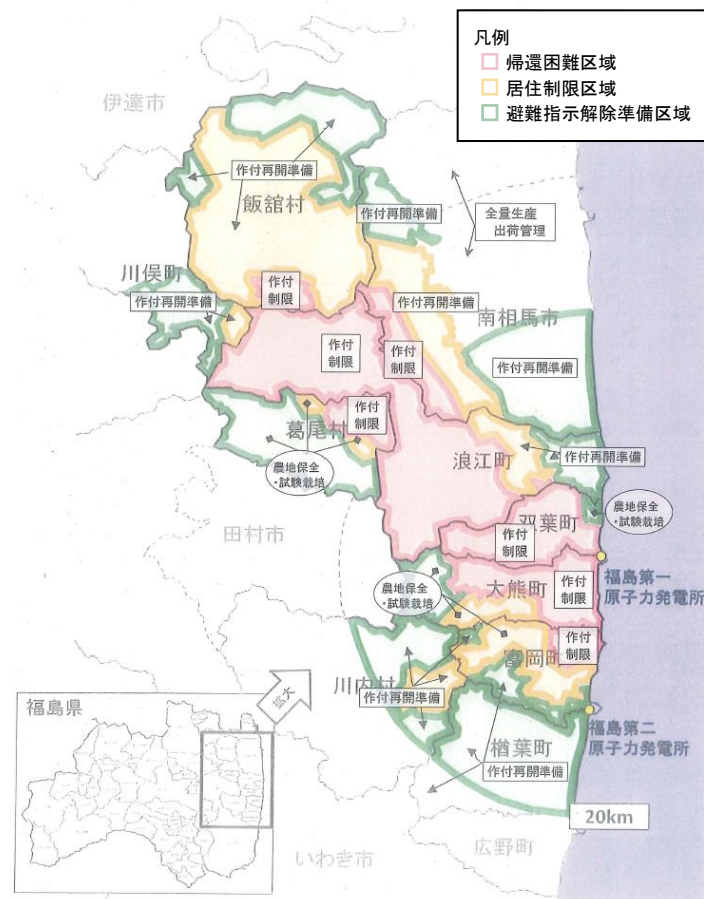
Products \ Prefectures		Fukushima	Ibaraki	Tochigi	Gunma	Others
Forest Products	Mushrooms (Wild)					
	Mushrooms (Cultivated)					
	Wild plants (Wild berries etc)					
	Wild animal (Boar meat etc)					
Fishery Products						
Vegetables and Fruits						
Meat						
Poultry Egg						
Milk/Milk Products						
Tea/Tea products						
Rice						
Other Products						

福島県内20km圏内の市町村（南相馬市、川俣町、楢葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯館村）の全ての食品

	: Suspended
	: Requiring the certificate of Pre-export testing issued by the Government of Japan.
	: Requiring the certificate of Origin issued by Japanese government or the chamber of commerce & industry.
	: Subjected to sampling test in Singapore.

避難指示区域の見直しと
平成26年産米に関する作付け制限等の対象地域

1. Apr. 2014





韓国の食品等の輸入規制

MAFF

- 韓国は、日本における出荷制限品目を輸入停止。
- 2013年9月、韓国は、8県（福島、宮城、岩手、栃木、群馬、千葉、岩手、青森）の全ての水産物を輸入停止。
我が国は、当該輸入停止措置の撤回を申し入れているところ。

【Current】

	Fukushima	Miyagi	Ibaraki	Tochigi	Gunma	Chiba	Nagano	Saitama	Shizuoka	Yamagata	Niigata	Kanagawa	Tokyo	Hokkaido	Aichi	Mie	Ehime	Kumamoto	Kagoshima	Iwate	Aomori	Yamanashi	Others
Fishery Products																							
Mushrooms																							
Wild Plants																							
Vegetables & Fruits																							
Milk and Milk products																							
Grains																							
Tea and Tea products																							
Other Products																							

	: Suspended
	: Suspended following the restriction of distribution in Japan
	: Requiring the certificate of Pre-export testing issued by the Government of Japan.
	: Requiring the certificate of Origin.



台湾の食品等の輸入規制

- 台湾は、5県（福島、茨城、栃木、群馬、千葉）の全食品を輸入停止（酒類を除く）。

【Current】

	Fukushima	Ibaraki	Tochigi	Gunma	Chiba	Others
Mushrooms						
Wild Plants						
Grains						
Fishery Products						
Vegetables & Fruits						
Milk and Milk products						
Tea and Tea products						
Meats						
Poultry Eggs						
Other Products (Excluding Alcohol)						

: Suspended
: Subjected to sampling test in Taiwan



香港の食品等の輸入規制

- 香港は、5県（福島、茨城、栃木、群馬、千葉）の野菜、果実、牛乳・乳製品を輸入停止。

【Current】

	Fukushima	Ibaraki	Tochigi	Gunma	Chiba	Others
Vegetables & Fruits						
Milk, Milk beverages and Dried milk						
Meats						
Poultry Egg						
Fishery Products						
Other Products						

	: Suspended
	: Requiring the testing certificate issued by Government of Japan.
	: Subjected to sampling test in Hong Kong



米国の食品等の輸入規制

- 日本国内で、出荷制限措置を講じた品目は市場に流通することなく、まして海外へ輸出されることはない。
- 米国は、制度的に日本の出荷制限品目を輸入停止としており、日本が出荷制限を解除した品目は、米国も輸入停止を解除するシステムである。

【Current】

	Fukushima	Ibaraki	Tochigi	Miyagi	Chiba	Iwate	Nagano	Gunma	Saitama	Yamanashi	Shizuoka	Aomori	Yamagata	Niigata	Others
Mushrooms															
Wild Plants															
Vegetables & Fruits															
Milk and Milk products															
Grains															
Fishery Products															
Tea and Tea products															
Meats															
Game Meat															
Other Products															

: Suspended following the restriction of distribution in Japan
 : Requiring the laboratory analysis issued by the third-party laboratory
 : Subjected to sampling test in US



中国の食品等の輸入規制

MAFF

- 10都県の全食品を輸入停止。
- 10都県以外の生鮮食品等の輸入に放射性物質検査証明書を要求しているが、当該証明書様式が合意されておらず、ほとんどの生鮮食品等は輸出できない状況。

【Current】

	Fukushima	Miyagi	Ibaraki	Tochigi	Gunma	Saitama	Chiba	Tokyo	Niigata	Nagano	Others
Mushrooms											
Wild Plants											
Grains											
Fishery Products											
Vegetables & Fruits											
Milk and Milk products											
Tea and Tea products											
Meats											
Poultry Eggs											
Other Products											

	: Suspended
	: Requiring the certificate of Pre-export testing issued by the Government of Japan.
	: Requiring the certificate of Origin.

Thank you!

Japan appreciates your cooperation for maintaining food safety for our next generation.